

かっぱの会

1995年 9月1日

Vol 2

初秋の風吹号

発行 北川かっぱの会 東村山市野口町 3-11-8

三島方 TEL 0423-91-2365



北川清流復活めざして

「かっぱの会」いよいよ活動を開始

北川に生き物が帰ってきた！

——カワセミを目撃？！
大ニュース！ 先日、カワセミ
を北川で目撃！？

コバルトブルーの美しい羽はカ
ワセミに間違いありません。私は
ぼうぜんと川岸にたちすくんでし
まいました。

カワセミは清流のシンボルとよ
く言われています。また、川に小
魚等の餌が豊富にあるところによ
く出現することです。

東村山では以前北山公園で確認
されたことがあります。最近の
目撃例は少ないとか・・・

(宮本記)

●北川かっぱの会が目指すもの

かっぱの会が目指しているのは、東村山に再び清らかな川の流れを取り戻し、市民と川との豊かな関わりを育てていくことです。

川には瀬や淵があり、魚が群れをなし、トンボやホタルが舞い、野鳥が集い、子供達の歓声がかかります。少し前まで北川にあった身近な水辺を取り戻したいのです。古くからお住まいの方々にはなつかしい水辺の再現となり、新しい住民や子供達にとっては信じられない出来事となるでしょう。それは、決して不可能なことではないのです。

北川では流域の下水道が完備され、日ましに流れがきれいになってきています。生き物も少しずつ回復してきているようです。

今後は、洪水に配慮しつつ、残された自然を保全したり、コンク

リート護岸を見直したり、川そうじをしたり、と少しづつ川に手をさしのべていけばいいのです。

そんな試みは、今全国各地でさかんに行われています。あの建設省も「多自然型川づくり」といって、治水一辺倒の河川改修を改め、自然を保全・復元するため様々な試みを始めています。

そこで、かっぱの会ではまず「かっぱサロン」と称する学習・座談会や「かっぱ探検隊」というフィールドワークを始めました。川や自然、地域を学び、多くの人々と意見交換し、酒を飲みながら夢を語り、できることから行動していきます。そして行政に対し、様々な提案をしていきます。

急がず、あせらず、じっくりと楽しく活動していきたいと考えています。

(図説東村山市史より)



●北川の源流・12段の滝の原風景

昭和30年頃、12段の滝では何と水遊びができた!

当時の様子を知っている方おられますか? ぜひお話をお聞かせください。

第一回かつぱサロン報告

第一回かつぱサロンを開催。

日本生態系保護協会の堂本さんから自然生態系のお話を伺い、その後川の話をもて盛り上がりました。

7月8日、市民センターで第一回かつぱサロンを開催しました。

第一部では、講師に日本生態系保護協会の堂本泰章氏をお招きし、「自然とは何か? 生態系を知る」という題で大変興味深いお話を戴きました。

また第二部では飲み食いしながら、川の自然復元や、市民活動の話等々楽しく盛り上がりました。

スライドを使った堂本氏のお話は大変説得力があり、一同聞き惚れてしまいました。「堂本先生、ありがとうございます。」

ここで、その内容を御紹介することはできませんが、一部を以下に御紹介します。

★自然とは何か?

自然を守るといふことは、『自然生態系』という自然界のシステムを保全していくことだ、と氏は説明します。

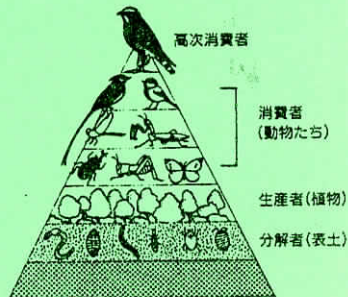
水、空気、太陽エネルギー、多様な生物、表土という5つから構成される自然生態系のシステムを健全に保ち、未来に引き継いでいくことが重要だということです。

★生態系ピラミッドの意味

特に、自然界には多様な生物があり、食う食われるという関係(食物連鎖)でつながっています。このバランスを維持、向上、復元していくことが必要なのです。

つまり、土から植物が育ち、それを食べるチョウやバタがいて、それをトンボやカエルが食べ、またそれをヘビや小鳥が食べ、最後はタカやキツネ等の大型の動物が食べるという関係があるのです。

生態系ピラミッド



これを模式化したのが生態系ピラミッド(図参照)です。ピラミッドの形は底辺が長く、頂点が細いものです。自然が壊れると頂点の動物から姿を消していきます。タカやキツネ等の頂点にいる生物は、一見強そうですが、生態系の中では最も弱い立場なのです。その地域の自然が豊かかどうかは、このピラミッドの状態から診断できるということです。

★本当の自然保護とは?

だから、自然保護というのには、珍しい生物だけを保護したり(それも重要であるが)、外国の花や

緑を野外に植えたり、川に錦ゴイを放すことではありません。

地域の生態系の特徴をよく知り、適切な方策を講じていくことが必要なのです。

狭山丘陵でオオタカを守ろうというものは、オオタカが可愛いからではなく、オオタカという生態系の頂点の生物を指標にして、地域の生態系を保とうということの意味しているのです。

★なぜ、自然を守るのか？

では、なぜ自然を守る必要があるのでしょうか？氏は、「それは人間が未来にわたって生存していくためだ」と説明します。

人類は自然界から、様々な有用な資源や恵みを摂取することで生きてきました。これを支えてきたのは、自然生態系そのものです。

例えば、バイオテクノロジーの分野では多様な遺伝子資源の保護が必要ですが、これは人工的には不可能です。地域々々の多様な生態系そのものを保全していく必要があるということなのです。

ブラジルの環境サミットで締結された生物多様性条約には、そういう意味があるのです。

また、森や緑地、水辺という自然環境は、都市のヒートアイランド現象を緩和したり、大気を浄化する、車の騒音を緩和する等の効果があります。快適なまちづくりには自然を取り入れ、活かしていくことが必要なのです。

さらに、自然が織りなす風景は、人間生活にうるおいを与えます。

特に子供達は、身近な野生生物と触れ合うことによって、思いやりや精神力、体力、判断力が養われていくことが知られています。

★何をすべきなのか？

「でも、私たちの街のように都市化された所では、生態系の保護など無理では？」という声に対し氏は、「ドイツやスイス等の先進国の取り組みを紹介されます。」

ドイツでは、連邦自然保護法で「人間の居住域・非居住域に関わらず自然を保護し、保全・発展させなければならぬ」という目標

を掲げています。

街の中でも、都市計画において大小の自然拠点の配置やネットワークを位置づけています。保全すべき場所を保全し、公園や水辺を生物の生息空間(ビオトープ)として活性化し、鉄道や道路をも自然の回廊として整備しています。日本でも最近、各地でビオトープの整備や、川の自然復元の試みが始まっているとのことなのです。

等々、堂本氏のお話は大変内容が濃いため、限られた紙面では全てをお伝えできません。詳しくは、日本生態系保護協会編「日本を救う最後の選択」(Booksコーナード参照)が大変わかりやすいので、ぜひ御一読下さい。



水郷水都全国会議レポート

水郷水都全国会議は、各地の河川・水辺をテーマとして、全国各地で開催される市民の手づくりイベントです。川について考え、市民が交流する、そんな催しです。

●引地川の川づくりに学びたい

横浜で行われた第11回水郷水都全国会議に参加しました。7月30日に行われた見学会では、相模川河口堰の現場と引地川の多自然型川づくりを見てきました。

相模川河口堰については、堰建設の必要性に強く疑問を感じざるをおえませんでした。科学的な立場に基づいた話あいが望まれます。行方に注目したいものです。

一方、行政と市民が協力してうまくいった事例として、引地川の多自然型川づくりの現場は、希望を持たせてくれました。

公園の中を流れる引地川のコンクリート護岸をはがし、土と植物

による川岸を復元したということ。当日は子供達が水辺で遊んでいる姿もみられました。

北川の再生にも参考になる好事例だと思えます。かっぱの会でもぜひ見学に行ってみたいものです。

(宮本記)



「多自然型川づくり」

視察レポート七月二八日
横浜市行政整備における、
いたち川・和泉川の水際の
自然復元と植生工法を視察
して参りました。横浜市緑
政局吉村氏は、一度死んで
しまった川でも木杭と玉石
を用いて瀬を作り、土をベ
ースに植生を回復させる。
そうすれば生態系の復元と
工学的な安定性は両立でき
ると語っていました。

二つ川は、少しづつではあるが生きものが戻りはじめ、子供が遊び、鳥が飛び交う川になっていました。我が東村山の川も市民と行政の手でカッパも寄りつくような川にしなければ！
と思う。

(柳沢記)

北川クリーンアップ作戦

北川清流復活の具体的行動としてこの10月（日時は未定）市行政が主体となり市民参加型の北川一大川そうじ作戦が展開される。北川流域の市民のみならず、東村山の自然を愛する人々に広く呼びかけたいとのこと。「北川かっぱの会」でも全面的に応援。ボランティア態勢を作る予定詳細は市報でおって告知されます



産業まつり

北川の清流復活のための活動を開始した北川かっぱの会、産業祭へ参加。産業祭は、市内の農産物を含む産業振興の一大イベントととして毎年、開かれている。そこは沢山の生産者と消費者・生活者の交流の場でもあり、北川かっぱの会も清流復活という目標のもと、水と緑の街づくりの一躍をになうべく参加します。ぜひご来場下さい。
日時 11月11日（土）・12日（日）
10:00 ～より

第2回かっぱサロン

のお知らせ

北川かっぱの会では、川や自然、まちづくりをテーマとして気軽に参加できる学習・座談会を定例で行っています。

第2弾は「川を知る」と題して、川の基礎知識や川の自然の特徴に迫ります。ぜひふるって御参加下さい。

日時/9月9日（土）

第1部 お話 AM10:00～12:00

第2部 飲み食いサロン（予定）

場所/東村山市市民センター

参加費/第1部 500円

話題/「川を知る」

提供者/北川かっぱの会 宮本善和

問合せ/宮本 ☎ 0423-92-6634

◆ 第1回かっぱ探検隊 ◆

《空堀川源流と縄文遺跡探索ハイク》
日時：10月中旬の（土）または（日）予定
《かっぱの会》ではかっぱサロンと併設して、2～3ヶ月に一回ペースで市内の自然観察、先進自治体の環境問題に対する取り組みなどを現地フィールドワークを通じて学んでいく予定です
第1回目は市内を流れる空堀川の源流ハイクですが、詳細は次号をご覧になって下さい。講師には市内在住の古代遺跡研究家を予定しています。縄文遺跡では楽しい昼食会もあるよ。



北川かっぱの会

かっぱの会会員募集

北山公園の前を流れる北川は、かつて、ウナギやトジョウや魚が生息し、夏休みともなれば水ガキが一日中、かっぱになって遊んでいたといえます。今では見る陰もない川になってしまいましたが、もう一度美しい川を取り戻したいという大きな夢をもって「北川かっぱの会」をつくりました。

自然が大好きで、趣旨に賛同、活動に参加できる方（参加は自由）を広く募集いたします。申込みは下記まで。

（かっぱサロンでも受け付けます）
会費は年3,000円です。かわいらしい会員証（かっぱサロン割引有り）と、かっぱ通信（隔月間）をお送りします
問合せ、申込み先 東村山市野口町
3-11-8 三島方 TEL 0423-91-2365

KAPPA CLUB
'S

北川かっぱの会



玉淀だより

北川本流荒川の中流部入口に通称玉淀河原があります。ここは関越自動車道花園インターから6~7分のところがあり、交通の便もよし、また河原もたいへん広いので週末ともなると、カヌーやバーベキューを楽しむ人でにぎわいます。私達は、カヌーをベースに玉淀から上流の長瀬にかけてほぼ毎週通っていますが、通いつめるうちに人や自然などいろいろ見えてきました。次号よりレポートします。

会員近況報告

被爆50年の今年。八月四日から六日まで家族で広島を訪れ、子供に核の悲惨さを体験してもらいました。亡くなった母親のそばで座っている赤ちゃん平和記念館に展示されていた絵の一枚ですが、胸がつまる光景でした。

被爆は核兵器によるものだけではありません。チェルノブイリ原発事故汚染地域は、日本の2.7倍です。原発事故が起きれば清流が流れていてもむなしと河童も喝破。全ての核は環境の天敵、これが今回のメッセージです。

渡辺

ことしの夏

湯布院、「人が自然のために、自然が人間のために、理想の時空を求めて万物が動き出す」とするパンフレットには、豊かな農林業とそれを迎え入れる人々の心の豊かさが写る。

四国四万十川、90種類の魚が今も生きづく、魚法を守り、川と生きてきた土佐の人々の生活、明治維新の原動力を生み出した若人の熱気は、ゆるやかにして、厳しい四万十川の流れに似ている。

森内 京子

長良川に行きました。キャンプ地を探していたところ、地元の初老夫婦と知り合い、「いい河原を教えてやろう」と言われました。おじさんは10分位と言っていたのに、街に入り、田んぼの中を通り、山をいくつか越え、行けども行けども着きません。もうすぐ日が沈む。たどり着くのか心配になってきた頃、やっと川が見えてきました。

翌朝、起きてやっと川と対面。水がこんなにきれいだなんて、思い出させてくれる川でした。潜ったよ！（貞）

Evnts

森の叫びが聞こえますか？この夏は地球を考える夏です。

POWER PEACE
for the

「ぼくたちの地球を守ろう」

- 日時 9月8日(金)・9日(土)
会場 八王子いちょうホール
料金 前売 ペア券 4,000円
前日券 2,500円
当日券 3,000円
主催 ダンスミュージカル 新委財
後援助成 多摩交流センター
メッセージ 東京多摩地域の水と緑を
広域的に保全していくために設立し
たグループです。市民、行政関係者
企業関係者そして専門家の共同作業
による、街づくりを提案しています
連絡先 ダンスミュージカル実行委員
会事務局 TEL 0426(61)4421

編集後記

連続真夏日を更新する猛暑。
かっぱのメンバーは、日本各地に散ら
ばり調査と称する遊びに興じてきまし
た。北上川、五十嵐川、長良川、四万
十川・・・
そのあい間をぬって第2号発行という
はなれ技！編集部はフルパワーで頑張
っています。

Information

みずとみどり研究会より

- 落合川流域中心としたシンポジ
ウム 「川と防災」

日時 9月3日(日)

- 北多摩の「みどり実態調査」の実
施に伴う会議

日時 9月20日(水) 19:00～

会場 国分寺共同事務所

- 95 森のアトリエ

日時 10月1日(日) 10:00～15:00

会場 狭山公園太陽広場

森のアトリエとは？

自然とリサイクルをテーマとした参
加型の野外アートイベントです。

今年で3回目となります。

連絡先 合志 TEL 0423(47)6158

Books

『日本を救う最後の選択』 1,200円

／日本生態系保護協会

(情報センター出版局)

歪んでしまった日本の自然観につ
いて指摘し、「自然とは何なのか
？」、「本当の自然保護とはどうい
うものなのか？」等について明快な
理論を持って解説した名著です。